

滋賀の文化情報誌

デュエット

Duet

2018 春 vol.127

滋賀県博物館協議会設立35周年記念

座談会

博物館を愉^{たの}しく、旅を豊かに！ —みんなで語る！ 滋賀県の博物館の旅・観光—

新撰 淡海木間撰 72 出征のぼり

INFORMATION STATION 催し案内 2018 春

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内

博物館を愉しく、旅を豊かに！

—みんなで語る！ 滋賀県の博物館の旅・観光—

パネリスト

武庫川女子大学名誉教授
高田 公理さん

毎日新聞にコラム「酔狂道中記」を連載。専攻は観光学、都市文化論。当日、第一部の講演の中で、日本の原風景を感じた水郷めぐりの印象や人が旅をする理由などについて語った。



パネリスト

滋賀県立琵琶湖博物館長
篠原 徹さん

研究テーマは、人と自然の関係を巡る民俗学。著書に『自然を詠む』等。



パネリスト

草津市立
草津宿街道交流館長
八杉 淳さん

専攻は、日本近世交通史。宿場などを歩き実践的な研究も展開。



パネリスト

MIHO MUSEUM
海外広報担当
南部 暁子さん

びわ湖ビジターズビューロー運営委員として、東南アジアを中心にプロモーション活動にも従事。



取材／編集部 写真／辻村耕司

コーディネーター

滋賀県立近代美術館
和澄 浩介さん



2017年11月19日、野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）にて、滋賀県博物館協議会設立35周年記念事業として高田公理先生の講演「旅と博物館—博物館の愉しみ方—」を開催。続く第二部では、県内博物館の名物館長や広報部員が高田先生を交え、博物館を生かした旅や観光のあり方について語り合いました。

旅における博物館の位置づけ

——コーディネーターを務める滋賀県立近代美術館の和澄です。県博協設立35周年記念パネルディスカッション「みんなで語る！ 滋賀県の博物館の旅・観光」を開催します。ここでは、博物館の第一線で活躍する皆さまに滋賀県の観光や博物館の魅力と、観光などに行ったおり、その地の文化や風土、空気などに触れるための博物館活用法について話し合います。まずは琵琶湖博物館の篠原館長、博物館を旅の中に組み込むメリットをご教示ください。

篠原 全国に博物館は現在5700ほどあります。私は博物館は嫌いでした。文化や自然を切り取って見せるよりも、自分で歩いたほうがいいと思っていました。けれども歳を取ると、地域の社会や文化、あるいは自然を知る入口として機能していることがわかるわけです。「入口」とは、博物館が、ある地域に行った際、そこがどんなところかを深く知るきっかけとなるという

意味です。

博物館法では動物園、植物園、それから美術館も資料館も交流館もすべてが博物館です。そういう意味では、こうした施設はすべて文化、歴史、自然の入口としての“博物館”だと考えています。

——その土地の文化、風土に触れたいときにまず行くべきところというような位置づけですね。たくさん外国を巡られた経験を通じて、多文化の中で印象的な博物館の位置づけをお聞かせいただければ。

高田 例えばロンドンの大英博物館は、世界中の宝物からガラクタまで展示されている

※1 滋賀県博物館協議会（県博協）

内の博物館施設（美術館・資料館なども含む）相互の連絡を図り、博物館活動を通じて県民文化の振興に寄与するため、公私の別・規模・分野などさまざまな特色ある博物館がその社会的使命の達成のために協力することを目指している。現在（2017年9月現在）69館が加盟。

る網羅的な博物館です。けれども、同じイギリスでもエディンバラに行くと、中世から近代の初めくらいに人々が住んでいた家を、台所道具から掃除道具まで全部そのままに置いていっているところがある。こうした、昔の暮らしが実感できるような小さな民間博物館を見ると、「昔の人はこんな暮らし方をしていたんだ」ということが見えて、大変おもしろいなど。

——博物館も一つのジャンルに絞ったものから、いろんなジャンルを展示するものまでありますね。

草津宿街道交流館もテーマを絞って、街道、人の行き交いを展示しておられます。範囲を地元にとり込まれたということになると思いますが、館の目的や狙いを八杉館長、お願いできますか。

八杉 私どもは施設規模としては小さな資料館です。ただ、草津には草津宿本陣という貴重な近世交通遺構が残っており、それとあわせて「街道や江戸時代の旅に関する文化や歴史の入口の役割を担う」ことを目的に活動しています。

教科書にある歴史は、国立博物館や県立博物館レベルのグローバルな視野で展開し、地方の博物館は、人々の暮らしや生活・文化に光を当てられればと考えています。

——訪日お客は、地方でも増えています。こうしたお客さんが、何を目当てに日本にきているのかを南部さんにお聞きます。MIHO MUSEUMさんは失礼ながら、最寄りの琵琶湖線の駅からバスで50分と行くのが大変なところにある半面、外国のお客さんがたくさん来られています。具体的に年間どれくらい、何を目的にこられているのでしょうか。

南部 年間来館者15万人のうち2割、約3万人は海外からです。内訳は半分が台湾、

■滋賀県立琵琶湖博物館

住 所	草津市下物町1091
連絡先	TEL 077 (568) 4811 FAX 077 (568) 4850
観覧料	一般750円、高大生400円

■草津市立草津宿街道交流館

住 所	草津市草津3丁目10-4
連絡先	TEL 077 (567) 0030 FAX 077 (567) 0031
観覧料	(単館) 一般200円、高大生150円 (本陣との共通券) 一般350円、高大生260円

■MIHO MUSEUM

住 所	甲賀市信楽町田代桃谷300
連絡先	TEL 0748 (82) 3411 FAX 0748 (82) 3414
観覧料	一般1100円、高大生800円

■銅鐸博物館（野洲市歴史民俗博物館）

住 所	野洲市辻町57-1
連絡先	TEL 077 (587) 4410 FAX 077 (587) 4413
観覧料	一般200円、高大生150円

■滋賀県立近代美術館（現在改修・増築工事のため休館中）

住 所	大津市瀬田南大萱町1740-1
連絡先	TEL 077 (522) 2111 FAX 077 (522) 2188 (改修中のため連絡先は大津合同庁舎内)



↑ MIHO MUSEUM に足を運ぶ外国人観光客

日本ならではの風景を見に、なかなか行けないところに、わざわざ足を運ぶ。

——南部暁子

いう楽しみに加えて山の中にあつて、世間と共存している、そういう現実を見に来られているようです。

——田舎でも多くの外国人を見かけるのは、「マコに日本らしい風景がある」と気づき始めているからでしょう。「MIHO MUSEUM が滋賀にあると思っていない」とうかがいました。京都の一部と思われているのかもしれませんが。一方で会場からも「歴史や文化面で滋賀と京都がコラボレーションするのはどうか」という意見があげられています。

高田先生は京都生まれ、京都育ちの滋賀暮らしということで、滋賀に来て見るメリットをうかがえますでしょうか。

高田 京都は一種のデイズニランドみたいなもので、徹底して人手を加えた世界です。おもしろいんですけれども、そればかりだと息がつまります。同時に京都には美しい場所がたくさんあるんですが、都市としてはあまりきれいじゃない。それと比べると、琵琶湖のある風景は美しい。ただ、現在の大阪市などの都市景観は風景とのバランスが取れていないように感じます。

博物館の枠組みを越えた新たな連携と協力

——篠原館長、自然の風景という話について博物館とからめていただけるとありがたいのですが。

篠原 「京都」という話が出ましたけれども、大津京に都がなくなつてから1300年あまり、たとえば奈良の藤原京と京都の

することに慣れきつてしまつてるんじゃないですか。白洲正子さんは、「近江は日本の歴史の舞台裏だ」といった。そうではないと思いますね。本当は表舞台なんです。信長が安土城をつくつたのは、日本の首都にするためと『信長公記』にも書いてある。なぜなら、この場所に米と魚と鉄があつたからです。要するに、ここを押さえる。だから表舞台なんです。僕はもうそろそろ京都と手を切つた方がいいと思つてい

るんです。

——京都と滋賀のコラボレーションの話から、手を切るという話になつております。だいぶ古いお話が出てきましたが、草津宿の街道の風景は、比較的よく残っている方でしょう。街道沿いの宿場町がこれほど色濃く残されているのは全国でもなかなか見当たらない。

草津宿街道交流館では、さまざまな街道との交流もあるようですが、昔からの風景を発信していくうえで取り組みを教えてください。

八杉 全国で江戸時代の宿場はだいたい450余り。そのうち滋賀県には約31あります。近江は東西交通の要地で、東から西へ行くときに必ず通らねばなりません。まさに「道の国」ですね。ただ、宿場というのは街道という線でつながっていますから、城下町のように一つの町で完結するわけではありません。そういうつながりやネットワークを大事にすることで魅力を広めることができるのではないかと思います。

例えば宿場町や街道にかかわる資料館、博物館などが手をつなぎ、魅力を広める取り組みが今後求められてくると考えます。

いま博物館施設はどこもなかなか予算がつきつらく苦慮しています。解決法として、いろんなところと手を組んで情報を発信する。そういう方向性にシフトしてきている気がします。

博物館同士はもちろん、例えば観光面などとの連携が大事になってくると思います。篠原館長に多方面との連携によって伝わる魅力などを教えていただければ。

篠原 連携といってもいろんな連携があり、博物館にもいろいろな種類があります。



↑当日、会場の銅鐸博物館をおとずれ熱心に耳を傾ける聴衆

日本の博物館が取り上げるテーマは多様で、ケーキ、馬、船に始まって、入れ墨や中ではマージャンまである。連携についても民間と、例えば市町村や県の博物館などがあります。

いまの市民は、知的水準が高いから一つの旅の中で複数回そうした施設へ行くわけです。だから競争するよりも協力した方がはるかに効果的。例えば民間の美術館は、バスを持っていたりするんですが、相談して博物館に寄ってもらう。いままでと違う客層にアプローチするので、顧客の発掘にもなる。一緒にやるのが大事なんです。

連携では博物館と学校の博学連携や福祉施設との博福連携もおもしろい。もう一つは企業との連携です。企業もいま環境問題に注視せざるを得なくなり、CSR活動な

観光客への効果的なアプローチ

高田 西国観音霊場は33カ所で四国なら88カ所。滋賀県の博物館は69カ所あるから、これを巡礼してもらう案はどうだろう。朱印帳みたいなものを作って、コレクター心理をくすぐるのはだめだろうか。

八杉 去年くらいから交流館で上下水道普及のために草津市のマンホールカードを配布し始めました。コレクターは、全国から来てくれます。なかには本陣と交流館を見る方もいる。スタンプラリーには、日本人の琴線に触れるものがあると思います。

篠原 高田さんの案につきましては、私も長い間博物館につとめていますから、似た

どで博物館とのつながりができる。最初は「環境問題を知るために琵琶湖博物館へ来てください」というような連携が考えられる。これをどんどんやらないといけません。互いに一緒にやる仲間、すなわちユニオンをつくっていかなくちゃいけないんです。

ような「日本の博物館の88カ所巡り」を30年くらい前に考えました。高齢者のためにやろうと協力と呼びかけたんです。しかし、博物館同士の協力がなくて破談になりました。

こういう提案をすると、例えば「88カ所全部回ってやることなくならどうす

※2 マンホールカード マンホールぶたをデザインした名刺大のカードで、表面にマンホールのふたの写真と場所を示す座標、裏面にはデザインの由来やご当地情報が掲載されている。4月28日からは第7弾の配布が始まる。



草津宿街道交流館で配られているマンホールカード（画像提供：草津市）➡

連携は施設の枠を越えてどんどんやる必要がある。競うのではなく、一緒にやる仲間を作らなければいけない。

——篠原 徹

る」などの意見が出る。僕は「2回でも3回でも回ればいい」と言いました。ディズニールランドの一番のリピーターって何回行っているかご存じですか。150回ですよ。ですから、博物館巡りも150回してもらったらいんです。博物館巡りはこれからの時代に求められるから賛成です。

—— 県博協でも以前、スタンブラリーをやったんですけれども、なかなか効果が上がっていませんでした。いまダムに行くと、写真が写ったダムカードをもらえます。そのためだけに山奥に来る人もいます。スタンブラリーという手法が通用しなくなったとしても、コレクター魂をくすぐるようなものが開発できればニースはあると思います。博物館同士が仲間になることが大事だということなのでここでMIHO MUSEUMさんの集客の工夫をうかがいます。

南部 国内の来館者誘致には別の担当がいるんですがやはりどこかでMIHO MUSEUMの取り組みを告知する必要があります。だから車内広告など最低限の広告は



↑ MIHO MUSEUM のレストラン「ピーチバレイ」で供される無農薬・手作りのおむすび膳（1800円・税込）

必要です。例えば人が多く来るところへの看板などから始めてはいかがでしょうか。

最近ソーシャルネットワークがもてはやされていますが、ちよつとしたクレームも広がるので怖い面もあります。ですから地道な接客応対も必要です。前事務長の方針で過去に、京都のホテルに研修に行かせていただいたこともあります。

海外の方は、「食」に対する執着が感じられます。特に台湾には健康志向の人が多くですし、欧米の方ならオーガニックを求める方もたくさんいらっしゃいます。MIHO MUSEUMでは無農薬で手づくりの食事を出しているんですが、たくさん提供ができません。そこで、7、8年前に信楽町の皆さんに協力をお願いして受け入れてもらいました。そうするとお客様が信楽の街中に出かけます。窯元巡りもされ、信楽駅前の伝統産業会館で信楽焼の歴史を俯瞰した後に散策されるようになりました。地域にも足を延ばして、町巡りをしているかのように思っています。

—— 地道な研修や地域のコミュニティに協力を求めるといったような活動の重要性に改めて気づくことになりました。「食」というワードが出ましたが、美術館、博物館のレストランが話題になり人気に火がつくケースも増えています。高田先生、文化施設と食のコラボレーションについてはいかがでしょうか。

高田 海外の美術館では歩き疲れたときに一休みできる場所は珍しくありません。日本でも高度成長期の後半くらいから、コンサートホールには必ず軽食を食べられるような場所を設けています。興味深い例として、福井県小浜市にある「御食国若狭おばま食文化館」では、土地のものを調理して食べさせるのが特長で、料理教室も開い



ています。南部さんに聞きたいのですが、ミュージアムショップはいかがですか。

南部 国によって買われるものが違います。アジアの方はしおりやはがきなど、ヨーロッパの方はカップなどの焼き物系を買われています。

高田 なぜおうかがいしたかというと、さっきディズニールランドの話が出ましたが、あれは博物館じゃないでしょう。「あれは遊園地や」と言いますが、そうじゃないですね。施設としては大規模商業施設なんです。人の目と耳とを刺激して、心を揺さぶって物を売っています。食べ物も弁当の持ち込みは禁止ですからね。

篠原 スーパーマーケットだったのか。

高田 と同時にね、例えばクエスチョンマークみたいな銀色のプラスチックが黒いコップについているものを売っている。コップに手を入れるとフック船長のような海賊気分を味わえるわけです。これはね、

カリブの海賊たちというアトラクションから出たところに置いてあります。値段は数百円。この商品はデパートで売れないけど、デイズニールランドだと買ってもらえるんです。売り場に来るときには、気分は半分海賊みたいになっていますから。



↑目黒寄生虫館の人気グッズ「立体サナダTシャツ」
(目黒寄生虫館 HP より)



↑今年4月2日にリニューアルオープンした琵琶湖博物館
のレストラン「にはのうみ」(滋賀県立琵琶湖博物館提供)

そういう意味では、銅鐸博物館に子どもたちがやって来て、粘土細工で物をつくったりすると、けっこう楽しいんじゃないかな。展示物の中に自分が入り込んだような気分にするような工夫があるとリピーターも出るかもしれない。デイズニールランドではないにしろ、1回が2回になり、3回になってね、ここの子が大人になって、今度は自分の子どもを連れて行こうかと考えることが大事なんじゃないかなと思うんです。琵琶湖博物館はどうですか？

もデイズニールランドくらい考えつくさないといけないかもしれない。
高田 そこまでしなくても。
篠原 しかし、工夫は必要。例えば琵琶湖博物館だったら、ふなずしのような郷土料理やそれに合わせた酒を出せるようにしたいですし、商品も図録だけではなくてもっとあるはず。

篠原 レストランなどの改革を進めていますが、まだ道半ばです。考えなければならぬのは、ミュージアムショップでの図録の販売、食堂を持っているところは食堂を含め、一環した施設として考えなければならぬことです。

高田 商品開発でいうと、例えば目黒に寄生虫博物館がある。このミュージアムショップで何が売れると思いますか。Tシャツなんですけど、絵柄は回虫や条虫なんです。驚くでしょう。いまどきの女子高校生はね、回虫、条虫を見たことがないからね、「ああ、かわいい」と買うわけなんです。

高田 条虫ってサナダムシでしょう。
篠原 そうですね。

例えばルーブル博物館は曜日によっては夜10時前まで開いていて、鑑賞後の余韻を楽しむことができる。ミュージアムショップも遅くまで開いているんです。けれども日本では感想を共有しようにも、そもそもレストランが開いていないし、図録を買いたいと思ってもミュージアムショップも午後5時に終わります。つまり施設として一貫性がないんです。文化を見てもらう施設として考えれば遅れているでしょう。商品

「付加価値をつける」という部分は、いま本場にどこの博物館でも力を入れています。博物館側の人間からすると、展示を観て楽しんで帰ってもらいたい。ミュージアムショップやレストランに力を入れるのは、どうもジレンマがあるところです。「そこに力を入れるくらいなら、展示費用にお金を回してくれ」と思ったりもします。しかし、付加価値の面から展示を見にきてくれるということも起こっています。

滋賀県らしさをアピールするために

——あちこちに話が飛びましたが、まとめに入ります。パネリストから「滋賀県らしさの中でも文化、風土を知ってもらう入口

としての博物館」との話が出ました。滋賀県らしさを知る拠点として、旅、観光に博物館を組み込めればと考えております。

展示物の中に自分が入り込むような工夫があると、
その子どもが大人になった時さらに子どもを連れてくるかもしれない。
そんな長期的な視点が必要だ。

——高田公理

県内には多くの風土文化が潜在的に存在する。 それらを博物館や資料館が 紹介する「入口」として機能する。

—— 八杉 淳

パネリストの方それぞれに、滋賀県らしさをうまく博物館に行くモチベーションとするためにはどうすればよいでしょう。

高田 琵琶湖が巨大で魅力ある自然物だということのをうまく伝えることでしよう。東の富士山、西の琵琶湖といわれるものの富士山に比べて琵琶湖の魅力はよく伝わっていない。一方で、例えば高島市で家に湧水を引き込んだものを「川端^{かばた}」といって関心が高い。水は人間が生きていくうえで一番基本的なものです。ひょいと後ろを見たら広大な集積があるわけです。そういう水の豊かさ、美しさ、魅力が引き金になって高島を訪れる人がたくさんいる。地域そのものの持つ魅力を、もう一度きちんと見直すということだと思います。



↑草津宿街道交流館で開催される連続講座「くさつ・歴史発見塾」の様子。講座には草津市内外から多くの人が訪れる

また、そういうことを学校教育の段階でうまく取り込んでいく。さっきヨーロッパの博物館の話がありましたけれども、その展示物は教科書で触れるんです。モナリザを見たあとにグッズがあったら買うわけです。なぜなら世界的に有名だからです。

そういう意味では、例えば学校教育で銅鐸が「見方によつては宝物だ」とすり込まれていると、「宝物のミニチュアでも買って帰ろうか」となる。すでにやっておられるとは思いますが、学校の副読本の中で、滋賀の文化みたいなものを教えていくことはとても大事な気がします。

—— 篠原館長、滋賀県の魅力を踏まえて一言お願いします。

篠原 滋賀県は奥深い歴史が一番の魅力だと思います。琵琶湖があるがゆえに展開した歴史があるのが大変おもしろいところ。

今、近江八幡に住んでいるんですが数百年前に八幡山城があつて豊臣秀次がいてそこから高野山に追いやられた。この道を戦国の雑兵^{ぞうへい}たちが駆け回ったかと思うとちよつと不思議な感覚になります。いま住んでいる横を信長が歩いたかも……と想像が広がり、歴史が好きになってきました。

やっぱり実感があるんです。だって「あそこ六角が負けて阿波の方へ逃げて行った」とか日本史に出てくる話がいっぱいあるわけでしょう。街道を含めて、「表舞台としての歴史」「歴史を実感できる場所」という面は、もう少し打ち出していくべきだと思います。

—— 八杉館長、篠原館長のお話を受けていかがでしょう。

八杉 今の話は、司馬遼太郎の『街道をゆく』の冒頭が「湖西のみち」から始まったというようなことですね。博物館にしても歴史・風土の資源にしても、京都は非常にコンパクトにまとまっていますが、滋賀県は琵琶湖を中心に県内全域に広がっているわけです。

「舞台裏」という話もありましたけれど、むしろ「隠れ里」という発想でとらえようと、非常に多くの風土、文化が滋賀県内に潜在的にある。それを紹介する入口として博物館や資料館があるのが1点。

2点目として、南部さんのお話でもありましたが、博物館へのアクセスは、滋賀県の場合、決してよくない。しかし、これも発想を転換し、施設へ行く間の自然景観などを取り入れられるのは「滋賀県らしさ」ではないかと実感しているところです。

—— 南部さん、座談会を振り返って一言。

南部 地元の人々が大切にしていているものに人は敬意を払って評価します。そこで残されたものを研究して保存し、継承していくという、博物館の役割は地味ではあるものの、非常に大切なことだと思っています。

—— ありがとうございます。限られた時間でしたが、皆さんに滋賀県の魅力を語っていただきました。その魅力が一番手早く、多様な視点で知ることができるのが博物館なのかなと総括させていただきました。

滋賀県の多くの魅力を紹介する博物館もたくさんあります。まさに入口としてあるわけですので、ぜひとも皆さん博物館に足を運んでいただいて、その魅力に気づき再確認したうえで、それぞれの地域に出掛けていただけたらと思います。

出征のぼり

滋賀県平和祈念館 専門員

伊庭 功

今年1月から6月3日まで開催している企画展示『野

洲郡北里村』では、多数の「出征のぼり」を展示しています。太平洋戦争がはじまるまでは、こうしたのぼりを立てて出征者を見送りました。のぼりの大きさは、竹竿につるす4m前後のものと、旗竿につるす1〜2m程度のものがあります。短いのぼりは色彩やデザインを凝らし、下縁に飾り紐をつけた、派手なものが多いです。こうしたのぼりは祝儀と激励の意味を込めて出征者に贈られました。中央には出征者の氏名を大書して、両脇

下部に贈った

人や組織の名が書かれています。氏名の上には、祝・尽忠報国・出征・応召・入営・入団などの文字や、国旗や鷲の絵をあしらっています。こうしたのぼりは既製品が準備されていて、名前だけが墨で手書きされています。

展示品には旧北里村（昭和30年に近江八幡市に編入）の方の寄贈品がありませんが、当館はご寄贈いただいた出征のぼりを多数所蔵しています。

戦前・戦中、成人した男性には徴兵検査を受けることが義務づけられていました。そのなかから入隊したのは、平時においては25%程度です。軍隊へ入隊したことは、お国の役に立てる立派な成人男性になったと認定されたと受けとめられていました。

昭和12年（1937）、北京近郊の盧溝橋で武力衝突がおこり、5か月後には首都南京が陥落しましたが、紛争は終結せず、全面戦争へと拡大しました。この日中戦争の拡大とともに入隊者の比率は急上昇し、予備役として在郷する人にも大動員がかけられました。

開催中の企画展示では、日中戦争が拡大した昭和13年に応召・入隊した方とご家族の記念写真を多数展示しています。地元の晝田英杉さんが撮影されたこれらの写真からは、出征のぼりを立てて盛大に見送ったようすがうかがえます。お国の役に立てる機会がめぐってきたことを祝い、戦場で手がらを立てることを期待して励ましたのです。「支那事変」と呼ばれたこの戦争は早いうちに勝てるつもりでいましたから、出征者やご家族の表情にも余裕がうかがえます。

やがて太平洋戦争が始まるころには、防諜と儉約のため、出征のぼりの見送りはひかえられました。そして戦況が悪化していくと、出征者はほんとうに死を覚悟して戦場へゆかねばならませんでした。



資料を紹介します。

■展示説明会

4月28日(土) 午後1時30分～

会場：長浜市長浜城歴史博物館2階展示室

入館料：一般400円、小・中学生200円

休館日：開催期間中は無休

お問い合わせ先：TEL 0749 (63) 4611

近代美術館と琵琶湖博物館のコラボレーション展示

近美×びわ博

描かれた湖国の生き物と風景

4月28日(土)～6月3日(日)

滋賀県立琵琶湖博物館



西内利夫「琵琶湖の仲間たち ナマズ」
1980年 滋賀県立近代美術館蔵

滋賀県立近代美術館に収蔵されている作品の中から、滋賀ならではの風景や生き物、風俗、文化を描いた絵画作品約40点をセレクトして展示します。これらを琵琶湖博物館所蔵の資料とともに紹介するなど、美術的な視点だけでなく総合博物館の特性を活かした展示をおこない、自然科学や歴史学といったこれまでにない視点からご鑑賞いただけます。

会場：滋賀県立琵琶湖博物館企画展示室

観覧料：無料

休館日：月曜日（4月30日(月)祝は開館）

■講演会

「生きる、描く、湖国の風景

—描かれた近江の景観史を中心に—

5月20日(日) 午後1時30分～3時30分

講師：小椋純一氏（京都精華大学教授）

登壇：田畑諒一（滋賀県立琵琶湖博物館学芸技師）

山口真有香（滋賀県立近代美術館主任学芸員）

会場：琵琶湖博物館セミナー室

定員：70名（当日受付午後1時～ 先着順）

参加費：無料

お問い合わせ先：TEL 077 (522) 2111（滋賀県立近代美術館）

近江愛知郡いまむかし

開催中～5月27日(日)

愛荘町立歴史文化博物館



愛荘町には昭和4年(1929)発行『近江愛智郡志』挿入写真のガラス原板が約400点伝えられています。これらの中には、約90年前の旧愛知郡の名所や旧跡、建造物のほか、現存が確認できない文化財などの画像が記録されており、当時の風土や地域性を知るうえでとても重要な資料です。

本展では、それらの写真パネルで愛知郡の今と昔をたどるとともに、コロタイプ写真印刷について紹介します。

入館料：一般300円、小・中学生150円

休館日：月・火曜日（祝日は開館）

※5/3～5/6は無料入館日（国際博物館の日）

お問い合わせ先：TEL 0749 (37) 4500

特別陳列

長浜ゆかりの五月人形展

4月21日(土)～6月3日(日)

長浜市長浜城歴史博物館



五月人形 豊臣秀吉・加藤清正 一式
長浜城歴史博物館蔵

毎年恒例となった、端午の節句（こどもの日）にあわせた展覧会です。甲冑を着用した秀吉と、そのそばに長い槍を持ち片膝をついて仕える加藤清正の五月人形をはじめ、長浜ゆかりの

城の改修

—並び建つ二つの櫓—

開催中～5月9日(水)

甲賀市水口歴史民俗資料館



発掘された東櫓台の石垣

国史跡水口岡山城跡の最も高所に位置する曲輪（伝本丸）には現在、二つの櫓台が残っています。発掘調査により、これらの櫓台にはかつて瓦葺建物が建っていたことが判明しました。本展では、二つの櫓を比較し、城の中枢部の構造の解明に迫るとともに、水口岡山城の変遷過程を明らかにします。

会場：甲賀市水口図書館・水口歴史民俗資料館ロビー

観覧料：無料 休館日：木・金曜日

お問い合わせ先：TEL 0748 (62) 7141

ちょっと古くてなつかしい

駅弁掛け紙

開催中～5月13日(日)

草津市立草津街道交流館



滋賀県「琵琶バス寿司」
（草津市所蔵・山口正コ
レクション）

本展示では、草津市所蔵の山口正コレクション（山口正氏から草津市に寄贈。昭和40～50年代の鉄道の記念切符などを中心とした歴史資料）の中から、昭和後期の駅弁掛け紙（弁当の包装紙）を展示します。

昭和後期から今も変わらない名物駅弁の掛け紙や、姿を消して幻となった掛け紙など、昔懐かしい駅弁掛け紙の数々をぜひご覧ください。

入館料：大人200円、高大生150円、小中生100円

休館日：月曜日、祝日の翌日

お問い合わせ先：TEL 077 (567) 0030

なせ 武将たちは何故、神になるのか —神像の成立から天下人の神格化まで—

4月28日(土)～6月17日(日)

滋賀県立安土城考古博物館

日本では、なせ
人が神として祀ら
れるのでしょうか。
この特別展では、
古代における神像
の成立から説き起
こし、信長・秀吉・
家康に至る天下人
の神格化まで、神・仏・人との関係性の道
筋をたどりつつその謎に迫ります。重要文
化財8件、府・県指定文化財11件を含む88
件にのぼる美術作品が集結します。

入館料：大人890円、高大生630円、小中生410円
休館日：月曜日(ただし、4月30日は開館)

■特別展記念講演会 「神になった人々」

5月13日(日) 午後1時30分～3時

講師：小松和彦氏(国際日本文化研究センター所長)

会場：安土城考古博物館セミナールーム

定員：140名(当日受付午後1時～ 先着順)

参加費：500円

■関連博物館講座

「徳川家康神格化への道」

5月27日(日) 午後1時30分～3時

講師：曾根原理氏(東北大学史料館)

■水曜神仏語り講座

第6回「神像彫刻の成立と展開」

5月9日(水) 午後1時30分～3時

第7回「豊臣秀吉の神格化と

豊国大明神像成立の意義」

6月13日(水) 午後1時30分～3時

講師：山下立(当館学芸員)

会場：安土城考古博物館セミナールーム

定員：140名(当日受付午後1時～ 先着順)

参加費：200円

■特別展ギャラリートーク

5月20日(日) 午後1時30分～2時15分

講師：山下立(当館学芸員)

会場：安土城考古博物館企画展示室

参加費：無料(要入館料)

お問い合わせ先：TEL 0748 (46) 2424



愛知・大樹寺徳川家康坐像
(江戸時代)

野洲郡 北里村 —戦時下のムラの人と風景—

開催中～6月3日(日)

滋賀県平和祈念館



(晝田和子さん提供)

昭和10年代当時、野洲郡北里村と呼ばれた地域は、江頭村・十王町・小田村・野村・佐波江村の5つの大字からなり、現在は近江八幡市に属しています。同村の晝田英杉さんは、昭和13年に日中戦争へ出征した人々の記念写真をはじめ、水郷の風景や戦時のようすがうかがえる生きいきとした写真を撮影されていました。今回は晝田さんの写真を縦糸にして、戦時色におおわれてゆくムラの暮らしを紹介します。

入館料：無料

休館日：月・火曜日(祝日にあたる場合は開館)

お問い合わせ先：TEL 0749 (46) 0300

びわこ鉄道フェスタ 清水薫鉄道写真展

5月10日(木)～16日(水)

西武大津店6階催事場

写真集『琵琶湖を巡る鉄道』(サンライズ出版刊)が好評発売中の鉄道写真家・清水薫氏(草津市在住)の作品約100点を一堂に展示します。同フェスタでは、鉄道グッズや模型などの展示即売など子どもから大人まで楽しめる「大鉄道マーケット」も開催。



さるがく おもて 猿楽と面

—大和・近江および白山の周辺から—

開催中～6月3日(日)

MIHO MUSEUM

平安後期から鎌倉時代の古面に始まり、南北朝から室町、安土桃山時代の大成期にわたる350点(うち重要文化財80点)の「面」を通して、主に彫刻史の観点から、文化芸能史、文学史の側面もからめて、中世の人々が熱狂した猿楽の世界をひもといていきます。

入館料：大人1100円、高大生800円、小中生300円
休館日：月曜日(4月30日/月)は開館、5月1日/火は休館)

■講演会「面のおもしろさ」

4月22日(日) 午後1時30分～3時

講師：伊東史朗(和歌山県立博物館館長、MIHO MUSEUM 研究顧問、京都国立博物館名誉館員)

会場：南レクチャーホール

定員：100名(当日美術館棟受付にて整理券配布)

参加費：無料(入館料要)

■シンポジウム

「猿楽と面の進展—各地に残る面から」

5月13日(日) 午後1時30分～3時30分

コーディネーター：

高梨純次(公益財団法人 秀明文化財団参事)

パネリスト：池田淳氏(吉野歴史資料館館長)

／村上尚子氏(石川県立美術館)／南本有紀氏

(岐阜県博物館)／戸田浩之氏(福井県立美術館)

会場：南レクチャーホール

定員：100名(当日美術館棟受付にて整理券配布)

参加費：無料(入館料要)

■ギャラリートーク

学芸員による特別展解説ツアー

「猿楽と面」

4月28日(土) / 5月19日(土) / 6月2日(土)

午後1時より約1時間(6月2日のみ午後2時より)

担当：桑原康郎(当館学芸員)

予約不要：当日美術館棟エントランス集合

参加費：無料(入館料要)

お問い合わせ先：TEL 0748 (82) 3411



「喝食」重要文化財
白山神社蔵 展示5/6/6/3



近江旅の本 滋賀・びわ湖 水辺の祈りと暮らし

淡海文化を育てる会 編／辻村耕司 撮影
A5判並製本 総128頁 2000円＋税

滋賀県の社寺や祭り、戦国武将や近江商人ゆかりの史跡、湖畔や源流の山々での人々の営みなどを、「水」「祈り」「暮らし」の観点から紹介。本文・アクセスともに英文併記。



琵琶湖博物館ブックレット6 タガメとゲンゴロウの仲間たち

市川憲平 著
A5判並製本 総120頁 1500円＋税

現在では数が激減し、田んぼや池で見つけにくくなったタガメとゲンゴロウの仲間たち。タガメのメスが行う卵塊の破壊など、その不思議な生態を写真つきでわかりやすく解説。



ここまでわかった甲賀忍者

畑中 英二 著／甲賀流忍者調査団 監修
A5判並製本 総64頁 900円＋税

伊賀と比べて何かと地味な甲賀忍者。蔵に眠る古文書を調べていくと在宅のまま尾張藩に仕えていた忍者がいたこともわかってきた。戦国時代から江戸時代の甲賀忍者の実像をわかりやすく解説しながら、甲賀の里を紹介。

近江天保一揆の基礎的研究

古川与志継 著
四六判並製本 総396頁 2400円＋税

野洲・栗太・甲賀3郡の農民が天保13年(1842)に起こした近江天保一揆。多くの義民物語と同様、明治期の自由民権運動との関わりで創作された部分も多い天保一揆について、基礎的史料を紹介しながら一揆の真実に迫る。



淡海文庫6 「朝鮮人街道」をゆく 新装版 彦根東高校新聞部による消えた道探し

門脇正人 著
B6判並製本 総204頁 1500円＋税

彦根東高校新聞部が現地調査や聞き取りを行い、江戸時代に朝鮮通信使がたどった近江の約40kmの道のりを明らかにした記録。1995年刊に補遺を追加した新装版。



石田三成かくれ里 ふるさと古橋ものがたり

古橋童子 著／古橋史跡文化保存会 発行
B6判並製本 総82頁 定価900円＋税

問合先 携帯090-5965-6589 (林)

関ヶ原合戦後、石田三成は現在の長浜市木之本町古橋で捕縛された。地元生まれの著者が今なお残る口伝を再構成。(2017. 2.28刊)

新しい教職基礎論

金子邦秀 監修
伊藤一雄・児玉祥一・奥野浩之 編著
A5判並製本 総158頁 1900円＋税

幼・小・中・高、特別支援学校・学級の教員を目指す人と現職教員が知っておかなければならない職務や服務とは何か。学校教育法、学校教育法施行規則などの法令も収録。

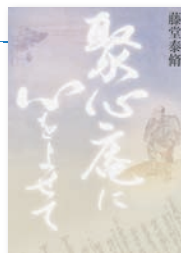


聚心庵に心をよせて

藤堂泰脩 編著／株式会社コーポレーション 発行
B5判並製本 総334頁 非売品

問合先 東京都中央区日本橋本町1-6-5 (発行元)

五個荘の代表的な近江商人一族、塚本定右衛門家旧宅を利用した資料館「聚心庵」の館長を務める編著者が、塚本家の経営や人物の事績を翻刻資料とともに紹介。(2018. 3.20刊)



表紙写真 MIHO MUSEUM 敷地内のトンネル

編集後記 京都・円山公園に行った。桜の盛りは過ぎていたにもかかわらず、外国人観光客であふれていた。このうち10分の1でも滋賀県に来てくれたらいいと思ったが、そういう自分も京都まで足を運んでいることに気づく。座談会で篠原館長が京都からの観光客の誘致ではなく、博物館の地域の良さを広める入口としての効用を述べておられたが、まさに地道な取り組みが意識を変えらると思う。来年は近江の桜を見に行こう。京都を超えるものがあるはずだ。㊤

Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1
サンライズ出版株式会社 Duet 編集部
TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先